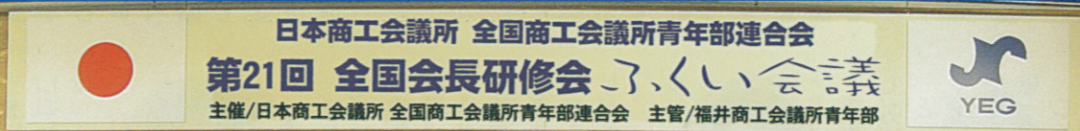


福居 vol.102

発行日：平成16年3月19日 発行者：林 洋三 編集者：木村 幸生
発行所：福井商工会議所青年部広報委員会 福井市西木田2-8-1 TEL：0776-33-8253 FAX：0776-36-8588



<http://www.fcci.or.jp/fyeg/>

CONTENTS

- 卒業会員からのメッセージ
- 平成16年度会長あいさつ・組織図
- 平成16年度委員長抱負
- 例会報告
- YEG塾
- 市民会議・イチヨライNPO
- 第21回全国会長研修会を終えて
- ふくい会議各部会よもやま話
- 会員大会・新入会員紹介・おめでとう



出田 吏市

卒業

思えば遠く九年前。市街地中心部の街づくり活動がしたくて入会した私でしたが、何処かで歯車がずれながらも、多くの仲間と出会い・喜び・感動してきました。特に六年前のYOSAKOIソーランとの出会いは、私の人生を九十度代えたかもしれせん。二三年前夢にも思わなかった会長職でしたが、勇往邁進の旗印の下、多くの貴重な体験をさせて頂きました。そして今、卒業を迎えています。私は一生に一度の人生、これからも夢を描いて突き進みます。多くの友を信じ歩みます。長い間ありがとうございました。福井商工会議所青年部の益々の御発展をお祈り申し上げます。



大鎌 利規

「卒業」を迎えておくる言葉

十一年を通して、何もしくなくても時間が過ぎていく、同じ時間が過ぎるなら活動をして汗と感動の涙をながす時間を過ごす方が大切だと思います。YEG活動は、積極的に自分を売り込み「自分がやりません」というアピールができるチャンスの場合だと思います。人間はチャンスによって大きく成長すると聞きます。益々YEGの皆様がチャンスにチャレンジして活躍されることを願っております。十一年間ありがとうございました。



笹木 竜三

長い間お世話になりました。また、イベント等には参加しますのでその際はよろしくお願ひします。



竹内 幹男

ありがとうございました

YEG在籍早や十数年、私の最初の活動は福井駅東でのハートランドでした。残暑の夜に大通りで夜を明かしたことが昨日のようです。その後市民の広場での街づくりフォーラムや、アジアを巡った海外研修、またキャンプやYEG等の家族イベント等々、熱い先輩と多くの仲間恵まれ、家族共々本当に楽しく有意義な一時期を過ごさせて頂きました。卒業してもふるさと福井のために恩返しできればと思っています。これからもヨロシク。



土田 耕一

福井商工会議所青年部の皆様長らくお世話になりました。といっても青年部に入らせていただいた時には、良く参加させて頂いたのですが、その後夜の仕事の都合でなかなか参加する事が出来なくなり大変申し訳なく思っていました。

しかし先日、の会長研修会で久しぶりに青年部の皆さんと再会して約九年。正確にいうと八年と十ヶ月(ちっとも正確ではないナ)。考えてみると、八年とか九年という長さは僕にとってどうやら一つの「スパン」ものさし?」になっているらしい。区切りというか、節目がいつもその頃にやって来るのだ。気が付くと自然とそうなっている。卒業にしてもその「ものさし」が働いているのかも知れない。



畑中 博

街であったなら

一年延長で青年部に在籍させて頂きました。この長い期間の中で経験を生かし、自分の夢に向かって進んでゆきたい。かといって、青年部活動に力が入っていたのは事実です。長い間お世話になり、ありがとうございました。商売人にはマイナスの、つき合いの下手な人間ですが、時々、できるだけ行事等に参加させて頂いていただきました。また、どこかでお会いしましたら申し訳ありませんが、貴方様からお声掛けをお願いいたします。小心者の愚者より。血踊る若き獅子の皆様へ。



藤田 哲郎

私の青年部歴は四年という短い期間でした。各部活動に十分働けたとはいえない内容でしたが、私の外での活動(松本小学校のPTA参加と松本小の子どもの達のイッチョライチーム作り)に大きな勇気とエネルギーをもらいました。最初の年は二回目のよきこいイッチョライで初めて何も分らず踊ったこと(これではまるで人生変わりました)。最後の今年には会長研修会での感動的な打上げ。青年部はすばらしい、卒業にあたってこの四年間の感動を忘れず今後の人生の糧としたいと思います。残ったみなさん頑張ってください。



前田 弘

卒業生の独り言

青年部に入会して約九年。正確にいうと八年と十ヶ月(ちっとも正確ではないナ)。考えてみると、八年とか九年という長さは僕にとってどうやら一つの「スパン」ものさし?」になっているらしい。区切りというか、節目がいつもその頃にやって来るのだ。気が付くと自然とそうなっている。卒業にしてもその「ものさし」が働いているのかも知れない。

しかし、それは大きな問題ではない。問題なのは、僕の「ものさし」に刻まれた「memory目盛り」である。当然のことながらそこには多くの人の出会いがあり、経験があった。それは他では到底得ることの出来ない事であった。

深く細かく刻まれた「memory目盛り」は、これから後の人生における「尺度」となっていくのかも知れないな、と思う今日この頃なのである。



松村 顕

往生際、悪かったな

ずいぶん長い間、青年部にお世話になりました。最後には、窓際で言いたいことを申し上げ、今は反省の日々です。煙たく感じられたことでしょうか。まったくまったく困った会員でした。次年度からは二十一年の習慣から解放され、自由に飛び回るそんなことを夢見ています。最高の青年部ライフをありがとうございました。な〜んてね...ついに年寄りの仲間入りかあああ...でもまだまだがんばるぞ!

/makura/makura/makura/makura/makura/



野阪 泰樹

んと仕事させて頂き、今年度をもって卒業させて頂く私にとって大変良い思い出となりました。今後も青年部の皆さんのご活躍を期待いたしております。

十五年間本当にお世話になりました。私にとって青年部は人生を変えるほどの大きな存在であったと思います。振り返れば、ハートランド、近プロ、ヨサコイそして桜並木保存運動など、思い出は限りなく蘇ってきます。

青年部は全ての会員に全ての面で平等にチャンスを開いています。それを自分のものにするか否かそれは全て自分自身の気持ち(青年部に対する取り組み)にかかっていると思います。青年部のこれから益々の発展を祈って、お礼と後輩に贈る言葉したいと思います。



橋 敏夫

事業を行なう本当の意味

平成元年に佐々木清史(ずっと以前に卒業、FONシステム社長)氏の紹介で入会し、十五年間在籍させて頂きました。青年部という意味ではまったく変わらない団体ですが、力溢れる団体になったと見ています。その溢れる力を一人ひとりの力として、自分の「はたらかがい」を見つけることはもとより、皆さんの企業の、社員一人ひとりの「はたらかがい」を作っけてあげてください。それが本当の意味での「事業の成功」と言うことができるのだと確信します。



水上 高良

YEGを何年も前に卒業されてる先輩方々や、今現在も頑張っている会員のみなさん、今から入ろうとしている後輩達、皆さんとも同じ優秀な人しか入れない(そんなことないか)YEG繋がりになります。

仕事やお客様などで初めて会う人でも、たまたま同郷だったり同じ学校卒だと分かると、とても話しが盛り上がり過ぎて親しくなれます。

そういうことで、皆さんも名刺には信用出来るYEG(ブランド?)を入れて、これからも頑張ってください。



山岸 寛士

今年度卒業いたします

YEGと言う学び舎で、多くの感動、気づき、学びを頂きました。YEGの卒業は、終わりではなく、始まり...まだまだ思い出話は早いです。これからは、経済人として、社会人として、はたまた家庭人として、真価が問われます。福井YEGの皆さんありがとうございました。



ステップアップYEG委員会

委員長 高木 秀樹

次年度ステップアップYEG委員会の委員長予定の高木G委員会の委員長として、お疲れ様でした。多くの会員の方はこの事業で学ぶことが沢山あったことでしょう。私自身も改めて福井YEGのパワーを感じ、感動を共有できたことをうれしく感じています。真剣に取り組んだ人たちが味わえる感動。私自身忘れかけていた美しい涙を流せたことが私の中では一番の学びでした。

次年度はその養われたネットワークや知識・能力を実践していく年です。

次年度委員会事業を開催するたびに美しい涙を流せるように、できる限りの情熱を傾け事業に取り組むたいと考えています。



総務委員会

委員長 佐竹 正博

リリリン、リリリン。十一月末携帯電話に所属の井関委員長から電話がかかって来た。全国会長研修会の話かと思っ。来年度総務委員長をしてほしいとの事である。思わず電話を切ろうと思った。いろいろ話をし、一旦電話を切った。

一週間後又井関委員長から電話がかかって来た。観念した。思えば青年部に入会して十年目となる。青年部には色々世話になった(なっている)。私の青年部生活は残すところ二年、恩返しのため一年間誠心誠意総務委員長をやらせて戴く。



コミュニティの鍵委員会

委員長 石川 裕夏

青年部に入会して二年半。今年も委員長として奮闘します。

私たちコミュニティの鍵委員会は、全国会長研修会ふくニティの「鍵」宣言をふまえ、コミュニティとまちづくり、コミュニティとビジネスの融合化を模索しながら活動していきます。

十六年度の主な活動内容は、青年部から独立した「イッチョライNPO」のサポート、青年部活動の広報事業、三十年後の福井YEGコミュニティの鍵ビジョンの作成などです。これらの事業によって、福井YEGの活性化、福井のまちづくりへの貢献を目指します。



まちづくりの鍵委員会

委員長 水元 一徳

まちづくりと聞いて皆さんは、どのようなイメージを持たれますか？

「人づくり」「市街地活性化」「市町村合併」など人それぞれに思いがあると思います。これからは、従来の行政主導によるまちづくりから、市民参加によるまちづくりが求められています。もちろんこのまちづくりというテーマは、我々YEGが一番必要とされている場所だと、また一番力が発揮できる場所だと思っています。

「いっちょらい」が今回NPOとして生まれ変わり、福井YEGここに有り！と結果を出した今また再び、原点に戻り会員皆さんとまちづくりを考えていきたいと思います。

ぜひ、まちづくりというテーマに、YEGらしくぶつかってまいりますので協力お願いいたします。

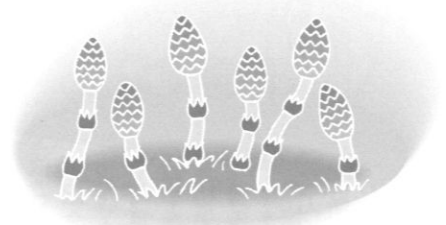


ビジネスの鍵委員会

委員長 吉田 晋造

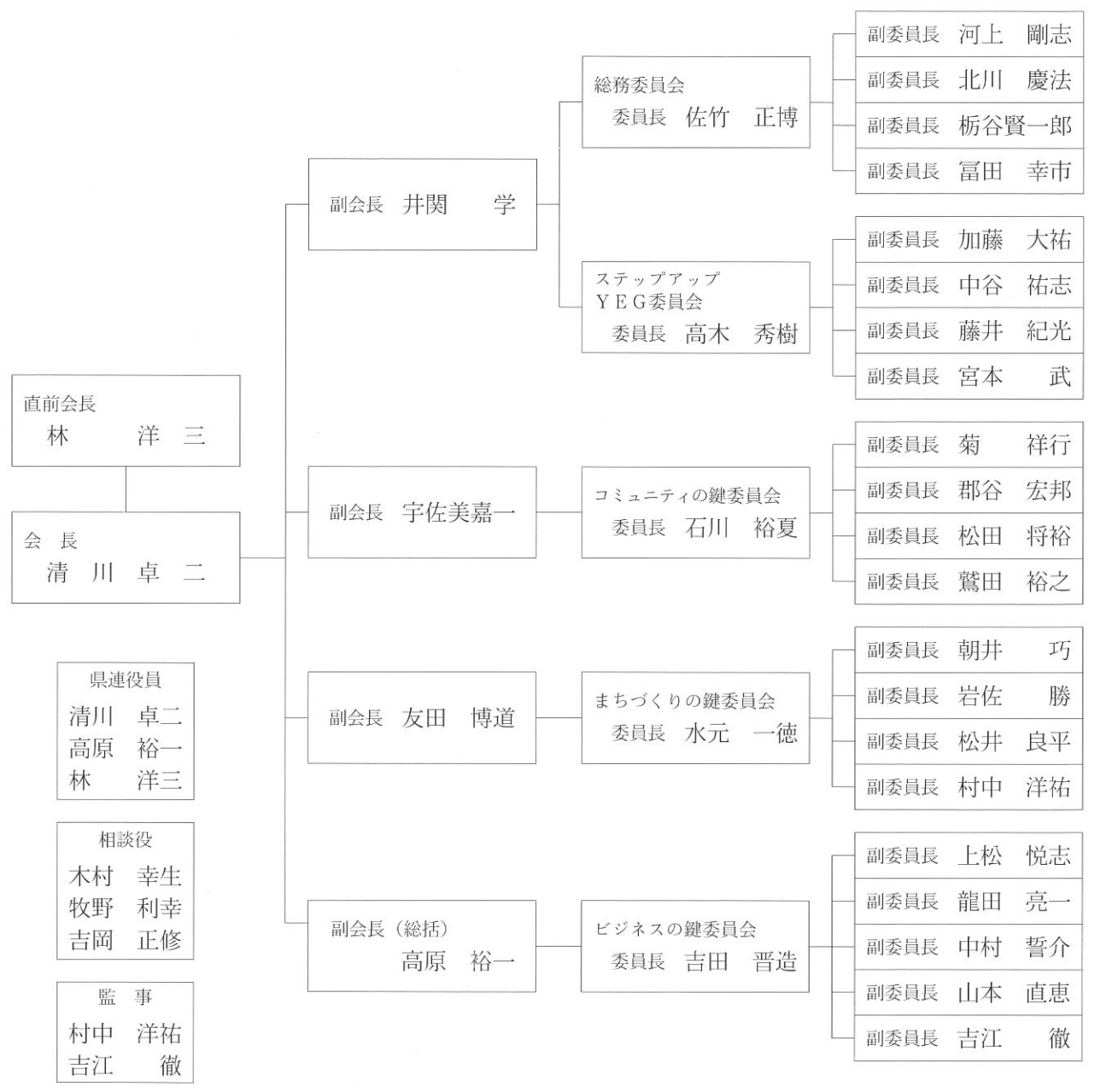
全国会長研修会の「YEGビジネスの鍵分科会」で議事録の取りまとめ作業を担当しましたが、その中で以下のことが改めて浮き彫りとなりました。

「始どりの人が商売に繋がることが期待してYEGに入ってきている」、しかし現実には、「会員同士がお互い何の仕事をしているかさえも良く知らない」という状況です。福井単会は、諸先輩方の力で、その点は克服しているとは思いますが、会員の期待にまだまだ応えられないのが現実だと思えます。次年度委員長として、会員のそうした期待に少しでも応えられるよう頑張っていきたいと思っております。ご支援の程お願いいたします。



平成16年度役員組織図

<役員総数32名 会長1、直前会長1、副会長4、理事24、監事2>



平成16年度会長
清川 卓二



二〇〇四年度は、福井YEG設立三〇周年を迎え大きな節目の年となります。諸先輩方の作り上げた歴史と受け継がれてきた精神、そして、未来へのメッセージを残す年となります。二〇〇四年度役員、会員の中には三〇年前は、生まれていない方も多くいます。

しかし、YEGの役割は、三〇年間「不連続の連続」により、意志を受け継ぎ新たな人材が、必要とされるテーマ、事業を展開してきました。全国に於いては、商青連三大事業「全国大会」「プロック大会」そして、「全国会長研修会」の完全制覇、地域に於いては、フェニックス祭りでの「みこし」↓「サンパ」↓「YOSAKOI イッチョライ」への発展、まちづくりフォーラムでは、「市民の広場」↓「ふくい市民会議」への展開、いずれも、三〇年の歴史の上において、福井YEGの精神が引き継がれていきます。二〇〇四年度は、これからの三〇年後の、自分、家族、地域のために、そして、ほんのちよっただけでも、日本、世界、地球のために！何より三〇年後の子供達のために「ステップアップYEG」

九月例会

「第四回若手経済人フォーラム」

平成十五年九月二十二日(月)
開催場所 福井パレスホテル



他単会、加賀YEG、一般参加の方々を迎え、「イタリア」をキーワードに交流深めました。

第一部では、小林国際事務所代表の小林元氏に「イタリアに学ぶビジネス手法」の演目で基調講演をいただき、その後、実際にイタリアのビジネス手法を用いて活躍する福井、加賀YEGの三企業にプレゼンテーションをしていただき、小林先生よりコメントをいただきました。そしてそこで得た「気付き」をYEG宣言として総括しました。

(吉田 晋造)

十月例会

「ハイウェイビジネス交流会」

平成十五年十月二十五日(土)
開催場所 武生商工会議所
料亭うおとめ

「繋がろう 掴もう 培おう」五つのえん・円・縁・塩・宴・YENをテーマに武生に十二単会が集まり、意欲的な情報交換が行われました。福井YEGからは二十三名参加し、二月に開催された全国会長研修会ふくい会議のPRも行いました。

基調講演では福井県立大学地域経済研究所の南保勝助教授からハイウェイ開通後の経済効果についてお話しを頂きました。高速道路等によるビジネスの影響については、商圏が広がることで新たなチャンスが増えるが、それとともに競争が激化し、さらなる独自の開発が必要だということ。YEGのネットワークを活かして、新たなヒントをつかめればと思います。

（柳高野様によるYEGネットワークを活かした新たな商品開発の経緯をお話いただきました。苦労話、でもYEGのみなさまに助けられたこと。大変面白くお話しされました。）

基調講演・オリエンテーションを踏まえてのグループ研究会では、それぞれの職種に分かれ、大変貴重な情報交換をすることができました。どのグループも実に真剣に問題に取り組み、いろいろなヒントをもらえたのではないのでしょうか。パネラーを迎えての発表の際も、それぞれのグループが独自の解決法を見いだしていたと思います。

その後、三グループに分かれエリア視察。私のグループは地場産業コースということで、越前打刃物会館を訪問しました。職人の技でナイフを作っていく様子は圧倒的であり、体験もさせて頂きましたが非常にうまくなります。やはり技術には長い修行が必要なんです。出来上がったナイフは研ぎ澄まされ、独特の光を放っていました。

(野路 昭宏)

十一月例会

「全国大会米子大会」

平成十五年十一月七日(金)～八日(土)
開催場所 鳥取県米子市
米子コンベンションセンター他



平成十五年十一月六日(木)・七日(金)・八日(土)に開催された全国商工会議所青年部連合会 第二十三回全国大会 米子大会に福井単会総勢二十七名にて参加しました。大会の基本コンセプトは「環日本海交流時代」逆転の発想・五つの転で、視点を変え転機、転向、転生、好転、逆転の五つの転をキーワードに記念講演と三つの分科会による二十一世紀ビジネスの捉え方の提案を受けて、商青連スローガンである「自分から、自分らしく、皆のために」なる大会を目標しての開催でした。

記念講演はジャーナリスト 筑紫哲也氏と鳥取県知事 片山善博氏との対談で、YEG会員の企業運営のヒント・指針となるような事柄、二

り方を示唆していただきました。

米子分科会は「逆転の発想がビジネスを変える」(株)ハンディネットワーク インターナショナル 春山満氏に学ぶと題して逆境の中から、チャンスをつかみ、世界が注目するビジネスにまで発展させた春山満氏の講演会のなかから、これからの日本の姿、ビジネスの姿を考える分科会。

大山分科会は「大自然でビジネスは転生する」(環日本海を臨む霊峰に学ぶ)と題して、歴史と神秘の山、大山を巡り(広大な自然を実感・満喫するとともに大山のふもとにある「とっとり花回廊」や大山乳業共同組合運営の大山みるくの里を訪ね)大自然という素材を活かし新たな価値観を創造したビジネスを学ぶ分科会。

境港分科会は「環日本海の玄関口に鬼太郎あり」(逆転の発想。鬼太郎の街に学ぶ)と題して、マイナスのイメージの強い「妖怪」を前面に出す逆転の発想により(寂れた商店街に活気が戻り、全国から新しい顧客を集めている境港市を訪ね、発想の転換から)新しい価値を見出す商品づくりを学ぶ分科会。と、盛りだくさんの内容でしたが、言わずとも全国のYEGメンバーが集結する一番大きな大会で、福井単会としてはこれまでの全国各ブロックでの「全国会長研修会ふくい会議」PRの最終章として、ふくい会議コンセプトの説明と全貌紹介。懇親会に於いては、明日があるさ、替え歌フルバージョンでスイッピー、ふくりゅうの着ぐるみや永平寺僧侶の仮装までもを交えての参加者全員一丸となったふくい会議PRで熱く燃えた銀色ジャンパー集団となりました。(その後ふくい会議PR隊は深夜にまでその勢いを加速させ、疲れ知らずの米子の夜となりました。)

(牧野 利幸)

十二月例会

「クリスマス会」

平成十五年十二月二十一日(日)
開催場所 シェ・ピノリ

今回は毎年恒例のクリスマススレクレレションを十二月度例会とし、商工会議所で定例総会を行った後、場所を「シェ・ピノリ」に移し、子供二十三名を含む六十一名の参加で盛大に開催されました。今回クリスマスレクレレションは「青年部活動を支えてくれている家族をもてなそう!」ということで、青年部会員は完全に裏方。奥様方や家族の方々にはお食事と雰囲気の子供達にはゲームの楽しみをということで委員会の中では企画しました。今回、ゲームの中で、パーティーでは恒例のビンゴを行いました。

だが、通常のビンゴでは面白くない!という事で、参加していただいた方々の名前をマスに記入し、名前を読み上げる形式でビンゴを行うこととしました。当初はテーブルが同席の方の名前を記入すればと考えていたのですが、そこは何も言わずとも主旨を理解していただいた(??)会員のお陰もあり、名前の聞き合いはいつの間にか会場全体に広がり、子供達が一所懸命他の子の名前を聞いて、書いているのを見るところこれこそが親睦だなぁと感慨深いものがありました。途中、会長サンタからの子供たちへお菓子のプレゼントがありました。その時の会長の「お父さんはどうですか?」の問いに「知らない」と答えたお子さんがいて会場を和ませていました。最後には当会員の原君にも協力をお願いして奥様・ご家族に花の鉢植えをプレゼントとして渡して無事終了しました。会員の皆さんは全国会長研修会で忙しく迷惑を掛けっぱなし?この日だけはおもてなしをできたのでしょうか?

(鷲田 裕之)

一月例会

「100人で叫ぶピックアップYEG100連呼」

平成十六年一月二十一日(水)
開催場所 福井商工会議所国際ホール

壮大なスケールの例会タイトルですが、役員会で計画案を読み上げる声は少し震えていました。全国会長研修会の総決起集会という位置づけで開催する例会でしたので、一人でも多くの会員に参加していただき、会長研修会への想いをひとつにしたいという目的がありました。

実際の例会では、まず各部長より職務内容の説明をしていただきましたが、連日夜遅くまで会議を重ねてまとめた部長の熱意が感じられる素晴らしい内容でした。

そして例会参加者ひとりひとりが、全国会長研修会への想いを宣言。このとき全員がベクトルが同じ方向を示し、大会成功の確信を多くの会員が感じたのではないのでしょうか。

参加人数は目標100名には届きませんが、六十一名の参加を頂き、一人二回は「ピックアップYEG」と叫んでいただけで、トータルで100連呼は達成!?

沢山のご参加ありがとうございました。(高木 秀樹)



第2回YEG塾

日時 平成十五年十月一日(水)
場所 福井商工会議所六階会議室

ビジネスプランコンテスト

平成十五年十月一日午後七時より福井商工会議所六階会議室において第三回YEG塾が開催され、「松ちゃん塾」と題して、商青連主催の平成十五年度ビジネスプランコンテストの応募要綱の説明及び、ビジネスプランの作成要領について、ビジネス発信委員会松田副委員長によるプレゼンテーションが行われた。ビジネスプランコンテストの表彰式が全国会長研修会ふくい会議の最終日に行われ、賞金総額も五〇〇万円と高額であることから、これを反映して参加人数も二十人を超える大盛況の「第三回YEG塾」となった。私に対する参加者からの質問も、「必ず中小企業長官賞を取る!」という、熱意のこもった質問が非常に多く、私自身も困惑した表情を浮かべながらの説明に終始した。しかし、そこは「松ちゃん」独特の人柄と熱意で何とか乗り切り、最後は、「福井から中小企業長官賞を!」を合言葉に、林会長の「ビックアップYEG」の絶叫で締めくくられ、第三回YEG塾は大盛況のうちに閉会した。(松田 将裕)

第3回YEG塾

日時 平成十五年十月三十一日(金)
場所 福井商工会議所六階会議室

ビジネスプランコンテスト発表会

平成十五年十月三十一日午後七時より福井商工会議所六階会議室において第三回YEG塾が開催された。第三回YEG塾は、「ビジネスプランコンテストで福井から中小企業長官賞を!」を合言葉に、ビジネスプランコンテスト応募者によるビジネスプランの発表と参加者によるビジネスプランに対する評価を中心に進行された。発表者は、清川卓二君、高原裕一君、石川裕夏君、私

第4回YEG塾

日時 平成十五年十二月五日(金)
場所 福井放送イイベント広場

IT体験セミナー

IT(インターネット)を情報基盤として活用し、あらゆる業務を効率化/活性化させる技術)は、我々中小事業者にとって経営効率の改善や顧客サービスの差別化の点で、欠くことのない技術となっており、標記セミナーを今回マイクログラフの協力を得て、開催しました。内容は、一般的にどこにでもあるよう

第5回YEG塾

日時 平成十六年三月五日(金)
場所 福井商工会議所 会議室

自分の商売を三分で語るよ 三分広告塾

今年度、ビジネス発信委員会は「お互いの仕事の事を知り、もっと会員同士ビジネスの話をしよう」をモットーに活動してまいりました。その締めくくりとして、標記題名にて原則出席者全員参加による大プレゼン大会を開催いたしました。企画の内容としては、三分間で自分の商売について語ってもらい、全員が審査員となって四項目二十点満点の評価シートで評価しあい、上位三名を表彰するというものです。全員が熱のこもったプレゼンテーションを行い、参加者全員がお互いの仕事の中心にも、メンバーの仕事に懸ける熱い思いが伝わり、お互いがお互いの商売に貢献できるように頑張ろうという意識の醸成にもつながったことと思われました。また、お互いに評価し合うことにより、各自のプレゼンテーション能力の向上にも寄与したと思います。(吉田 晋造)



第9回

ふくい市民会議報告

対外交流委員会 友田 博道

中学生が提案する「地域のまちづくり発掘未来に発信!わたしたちのまち」というテーマで第九回ふくい市民会議を開催しました。合併予定の福井市・鯖江市・清水町・越前村・美山町の各中学生を集めて、地域独自のまちづくり事例や自慢できる要素を発掘し、住み続けたいと思う、愛するまちとはどういうものかを、子供たちと共に議論する場の形成を目的といたしました。準備として五市町村の教育委員会への後援依頼から始まり、全中学二十九校への参加のお願い。事前にアンケートを行い一二四五通にも及ぶ結果の集計。代表生徒を三十名集めて企画会議を行い中学生からいろんな意見もいただきました。

中学生が提案する「地域のまちづくり発掘未来に発信!わたしたちのまち」というテーマで第九回ふくい市民会議を開催しました。合併予定の福井市・鯖江市・清水町・越前村・美山町の各中学生を集めて、地域独自のまちづくり事例や自慢できる要素を発掘し、住み続けたいと思う、愛するまちとはどういうものかを、子供たちと共に議論する場の形成を目的といたしました。準備として五市町村の教育委員会への後援依頼から始まり、全中学二十九校への参加のお願い。事前にアンケートを行い一二四五通にも及ぶ結果の集計。代表生徒を三十名集めて企画会議を行い中学生からいろんな意見もいただきました。

い、模造紙などを使い表現してもらい、新市の姿完成。十テーブルすべての発表を行いました。最後に司会の重盛アナウンサーが発表をまとめて終了いたしました。十二月に合併協議会への報告をさせていただきました。三月に報告書CDを作成し、参加者や各学校に配布いたしました。淡々と内容を書かせていただきましたが、いろんな苦労がありました。これだけのことが行えたのは委員会メンバーYEGメンバーの協力があればこそだと思っております。みなさんありがとうございました。その後委員会活動は全会研「YEGとまちづくりの鍵分科会」へ、とつながっていきます。

イッチョライNPO法人化について

相談役 イッチョライ委員会 出田 吏市

平成十一年に始まったYOSAKOIイッチョライは、第一回八チーム五五〇人でスタートを切りました。昨年第五回八十五チーム四五〇〇人が参加するまでに拡大し続けています。喜ぶべき事では有りますが、企画運営実行する団体にとっても重荷が増している現実と戦いながら開催して参りました。初めはフェニックス祭りを盛り上げるための一企画でしたが、やればやるほど奥は深く、遠くなってきました。たかが祭り・されど祭りなのです。このイッチョライは、素晴らしい事が多く大きすぎるのが見えてきたのです。そんな中で、第三回大会頃からNPO化を模索しながら歩んできました。

そしてこの度、法人化を決意し認可を待つだけとなりました。つまり青年部からの発展的独立を致します。多くの人の理解と協力によって運営されますが、市民意識が未完成の中、足元がしっかりしてこそNPOは機能が発揮されると思えます。青年部として、形は離れますが、まだまだイッチョライNPOへ協力応援をしていかないとうまく機能しないと考えられます。

当初からイッチョライは、行政指導型祭りではない市民参加型祭りを目指しており、青年部指導のもと、市民が創り上げる祭りを提案実行してきました。(イベントではない文化としての祭り作り)市民実行委員会・役員会を組織して、協議・審議しながら決定し実行してきました。さらに昨年は運営スタッフの充実、部会制の導入による一般参加など、

より多くの方が祭りに関われる体制づくりを実現しました。これらの作業(市民を育てる事)は、スピードこそ遅いが、今後にはない創る楽しさ、苦勞・喜びを実感してもらった事により、徐々にではあるが裏方の大切さを知ってもらう事ができました。祭りとは、創り手・踊り手・見る手の三者が楽しく一体的(お互いを思いやり与え信じあえる事)になってこそ続くものであり、長く続いてこそ文化になっていくと考えられるからです。最後に、福井商工会議所青年部が創生したYOSAKOIイッチョライは、特定非営利活動法人イッチョライNPOに進化致します。祭り創りを通して市民活動への参加意識を育成し、まちづくりを推進していきます。八現代社会におけるコミュニティの回復を目指してV。

旅立つイッチョライを末永く応援いたします。よう。

追記:イッチョライNPOの定款の目的を記載致します。
第三条(目的) この法人は、福井県民に対して、市民参加型のまつり・YOSAKOIイッチョライに関する事業などを行い、子供から高齢者まで世代を超えて交流し、ともに支えあう社会づくりを実現し、まちづくりにより、福井県の新しい伝統・文化を目指したまちづくりの推進に寄与することを目的とする。



そして当日、知らないことを知ろうとアンケート結果発表を行い、理解を深めようと五市町村各地域の紹介とウルトラクイズを行い、まちづくり活動を知ろうと各学校で取り組んでいる町づくりの発表(四校)を行いました。休憩を挟み新市のまちづくりを考えようと大人たちと一緒に合併後の新市のまちづくりについて考えてもらいました。テーブルごとに選んだいくつかのカテゴリーを使い話し合

夢の実現



大会長 林 洋三

①期限のある目標を持つこと
 ②明確なビジョンをつくりあげること
 ③本気になって多くの人の協力を得ること

目標は吉岡さんが決められました。出田さんが、その思いを熟成されました。

成功に向けて山岸直前会長が準備されました。

清川実行委員長が明確なビジョンを作られました。

副実行委員長と部会長の皆様が最初に本気を出してくれました。

そして、魂のこもったビジョンと本気により多くの会員と事務局が熱くなつた事実。

ついに全会員のベクトルがひとつになったと感動しました。

その思いを受けて、県内YEGも、福井JCも賛同し協力してくれました。

熱い思いの福井YEGが作り上げ成功させた全国会長研修会。

感謝以外のなにものもない、感動させてくれて、ありがとうございます。今度は限られた会員だけのためでは

なく、各企業で、各家庭で、夢を実現できたらと思います。ステップアップネクストステージ ネットワークYEG



人生山あれば山あり (ステップアップYEG)



大会実行委員長 清川 卓二

みなさん、ありがとうございます。とうございました。会長研修会を終えた今、一番感じていることは、「人間」のすばらしさ「人間」の難しさです。今回実行委員長として、二年間行動してきました。全てが、人と人との間の行動でした。商青連の人々と福井YEG、全国YEG単会の人々と福井YEG、地域の人々と福井YEG、やはりそこには、間(距離)があり、その距離を如何に縮めるかが、実行委員長としての仕事であったと思います。うまくいかない日々が続きました。しかし、「人生山あれば、山あり」の精神により、決してあきらめる事無く山を登り続けることができました。

この「人生山あれば、山あり」の言葉には、会長研修会実行委員会により完成した言葉となりました。人生に谷はありません、人は、歴史と経験により成長します。私たちは、目の前が暗くなると谷に落ちた、下っている」と勘違いし、急いで引き返したり、ルートを変えたりします。その結果、信念を失い、挫折します。

山でも、夜になると暗くなります。暗くなった山では、行動することは危険です。一緒に登っている仲間の姿も見失います。暗くなったら、その場でじっくり休み、体力を蓄え、考えることが大切です。朝になると又太陽が昇り、頂上を示してくれます。そして、見失っていた仲間の姿が見え、同じ目標を持つ人間として人生の山を一緒に登ることが出来ます。

会長研修会では、福井YEGとして、みなさんが同じ思いで「人生の山」を登ることができたと思います。大きな成功や多少の失敗もありました。しかし、「成功、失敗が重要でなく、信念を持って最後までやり遂げたが重要である」そして、この経験を商売に地域に繋げることが大切です。

さあ、今日もあなた自身の「ステップアップYEG」明日からのあなた自身の「ステップアップYEG」



自分から、自分のために

総務部会

上松悦志



「全国会長研修会 ふくい会議」において総務部会には「登録・宿泊・シャトルバス・その他」を担当しました。この中でも「その他」が一番大変だったのですが、まずは登録。十一月下旬にスタートし十二月二十日ころに第一回の締め切りを行った時点で最終登録数の三割しか登録が

まれる看板やのぼりの準備や設置、宿泊ホテルの各部屋に置いたインビションカードの作成、冷たい風が吹き込む駅でのインフォメーション、前々日にすべてのデータをチェックした登録証、万全に準備していたはずなのに戸惑う事の多かった前泊者交流会の受付や当日の受付、スムーズな受け渡し方法を直前まで頭をかかえていたコートクロック、絶対にミスは許されなかつた会場間移動の誘導、企画部会にも協力をしていただきましたが、お手伝いの福井県連YEG等各団体の調整、そして夜遅くまで行った雪掻きなど、小さなミスや見落としが多かったかもしれない部会ですが部会長を中心に無事大役を終えることができたのも会員や会議所職員の方々の協力と当部会メンバーの努力の成果だと思えます。本当にありがとうございます。

フロンティア分科会部会

友田博道

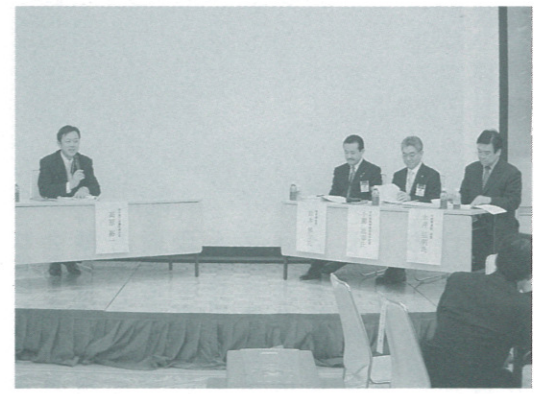
第九回ふくい市民会議を終え全ての力を全国会長研修会に注げる、そう思いました。しかし、いざ部会を開くと、参加者は遅刻早退含め四名、担当副会長も式典懇親会部会と二足のわらじ状態でもともちらの部会まで手が回らない状態。私自身もたまりにたまった仕事を抱えお手上げ状態でした。そんな中、清川実行委員長の機転で組織系統の変更が行われました。分科会は高原副会長が統括する。これで助かった。ここで組織の変更がなかったらまちづくりの鍵分科会はどうなっていたか。

組織の変更後、高原副会長の下フェニックス分科会に間借りするような形で、私ひとり細々と分科会の準備を続けました。高原副会長、コミュニティの鍵分科会担当者石川さん、ビジネスの鍵分科会担当者松田さん、まるで三人机をならべ、できる生徒とできない生徒が一緒になって、先生の指導を受ける状態でした。

今考えるとほほえましい状況だったかもしれませんが、その当時はそんな余裕もなく危機的心境でした。ようやく分科会の流れが見えはじめ、部会メンバーに役割を受け持ってもらい一人一人に分科会の流れを繰り返して、やっと委員会がまとまりだしたのが一週間前！その後は部会メンバーが手際よく完璧に各自の役割を担ってくれたと思います。いざ全会研、当日は出張でも出席できなかった一人を除き全員出席、深夜に及ぶ採択会議でも、退席者なしでYEGとまちづくりの鍵宣言文を作り上げました。結果どこの部会よりすばらしいと自慢できる部会だったと思っております。

何から何までお世話になった高原先生、お手本となってくれた優等生の石川さん、松田さん、ありがとうございます。そして最後の最後ではじめてくれた部会メンバーありがとうございます。見かねてお手伝いをしてくれたYEGメンバー本当にありがとうございます。

商青連総会の後、林会長の挨拶のときは今までのことが走馬灯のように流れ、涙ぐんでしまいました。まだ、実感はありませんがきっと私のDNAも進化したことでしょう。



フェニックス分科会部会

石川 裕 夏

私たちビジネス発信委員会は、全国会長研修会ふくい会議において、YEGとビジネスの鍵分科会、YEGとコミュニティの鍵分科会の二つの分科会を受け持ちました。

「会長研修会のメインは、何といっても分科会。」と意気込んで、会長研修会に向けた準備をスタートさせましたが、本番まではやはり苦労の連続でした。一委員会で、二つの分科会を受け持つ我々にとって、最も大変だったのが、当日の人員配置と事前の役割調整です。今回の分科会は、「これからのYEGのあり方」を事例紹介やテーブルディスカッションを通じて、参加者全員で考えていただくという企画で、総合司会をはじめ、発表者・講師のアテンド、テーブルコーディネーターなどたくさんの役割が必要でした。当然、我一委員会で全ての役割を受け持つのは不可能で、福井YEGの他委員会の方々はもちろんのこと、福井県連YEG、商青連、果ては参加者にまで当日の役割をお願いすることにしました。分科会の企画に込めた「我々の熱い思いを」とにかく、しっかりと伝える」ことに最も力を注ぎ、時には東京と福井を往復しながら、役割調整を十分におこないました。今思うと、この部分が分科会の成否を決めるポイントだったと実感しています。研修会当日は、当委員会メンバーのすばらしい動きと当委員会以外で役割をお願いした方々の支えに



より、とても充実した内容で、また活気溢れる盛りあがりのなか、分科会を進行することができました。我々の思いが役割をお願いした人たちに、そして参加者に十分伝わったことを確認する場であったかとも思います。今回の会長研修会を通じて、我々自身、たくさん「鍵」を握ることができました。「思い」を伝えることの意義と重要性、YEGという全国ネットワークの仲間存在、地元福井のすばらしさ、そして福井YEGのすばらしさ等です。会長研修会の主管という大仕事を終えた今、この事業を通じて握ったこれらの「鍵」をこれからの福井YEGの活動、各人の会社や商売に活かしていくことがこれからの課題です。会長研修会の本当の意味での成否は、これからの我々の行動にかかっている気がします。さあ、今から「ステップアップYEG」のスタートです。

企画部会

井 関 学

去る、平成十六年二月十二日(木)から十四日(土)までの三日間、第21回全国会長研修会ふくい会議が、市内ワシントンホテル、フェニックスプラザ、福井商工会議所ビルにて開催されました。思えば、前年度、宮本委員長率いる会長研修会準備委員会からの本格的な専門準備委員会の立ち上げから、二年。何から手をつければ？商青連との調整は？大会とはどのような内容で？などなど、謎だらけのスタートが、一年前。大会ロゴ、のぼりデザインが完成し、本年度企画部会へスィッチ。開催内容がまだ見え隠れする春時期、青年部組織と、全会組織の両刀で部会長が新たに選出され、いよいよ本格始動。第一回目の開催要綱の提出時期が迫りつつあるが、記載内容が不十分。同時作業で配布チラシの作成などなど、各部会が本格始動する前から、企画部会と広報部会は連日のミーティングの日々。ようやく完成の開催要綱も商青連役員会からの差し戻し



状態。手直し加え、大 会長、実行委員長、吉岡商青連出向理事のご苦勞により、その後は、前進あるのみ。六月例会にて商青連会長 鈴木梯介氏を迎え、各地ブロック会長会議、ブロック大会に出かける夏・秋時期ではありましたが、作業遅れに対し、実行委員会の運営方法、各部会の職務進捗状況、商青連との考えの行き違い、連日の全体軌道修正など、各部会への指示も二転三転。もどかしさを感じる企画部会がそこになりました。そこで、再度、鈴木会長、小園次年度会長を福井にお招きし、大会への思いを語る本音トーク会議を開催させて頂きました。そこからの我々のサポートは目を見張るもの。一月例会一〇〇連呼宣言後は、連日連夜の会議開催にもかかわらず、最高の企画詰めが出来たことで全国の会長が福井に大集結！ただけの結果となりました。我々企画部会は、全体の運営内容把握と、商青連調整役として一年間有意義に、また、最高の勉強させていただける場を担当させていただきました。身勝手な企画部会にご協力いただいた皆様、本当に有難うございました。

広報部会

木 村 幸 生

日本商工会議所「半角あけて」全国商工会議所青年部連合会第21回全国会長研修会 ふくい会議 「ふくいは平仮名だよ」が正式名称を語る弁なのである。広報部会、職務は記念誌製作と当日のナイトEtoとい

う事で立ち上がる。時は平成十五年四月YOSAKOI I イッチョライマガジン製作の真只中。よもや秋、冬の会議など誰が予想できた事か…。

夏が過ぎいよいよ各ブロック大会PR。ホームページにPRの模様を載せる。各PRの写真マニュアルをお願いしたにもかかわらず、カメラの故障や「聞いてないよー」攻撃。提出された原稿は批判や暴露本。面白いがHPには出せないネタばかり。再度の原稿お願い待つ事数ヶ月。PR隊がゆく、出来たころには冬將軍。十月に開催要綱早くしての声にエッ何それと大慌ての開催要綱づくり、立連に出遅れたぶんその後の記念誌も後手後手。商生連に提出するなつゆにも知らず、T副委員長と朝昼晩深夜の打ち合わせ、頭パニック体ばばん合言葉はビックアップYEG何とか開催要綱できあがりホッとすると間もなく記念誌づくり、マニュアルと柏を参考に作って見たらこんな物情報誌じゃないと一蹴。じゃあと原稿ふればこれまた待つ事数ヶ月。原稿書けない作れない、でもまわりは催促嵐が吹き荒れる。字が小さい、字体が変だ、デザインダサイ。はやくこいこいお正月。正月休もほとんどに年明けでいよいよ記念誌最終校正。土、日もない大雪にT印刷へ駆け回る。携帯の着信音はYEG音、耳鳴りが今日も合言葉はもしもならずビックアップ？YEG！。料金も数か月分まとめて来たのか今月は。二月十日手にした記念誌喜び、一緒に入った布団は深夜の二時。グルメマップ意外だったYEGの片町通。頭下げお金を使いの協賛五十店。協賛金もらいに行きたし会議は終わらず。本番は晴天に夜霧の今夜はありがとう。ナイトEtoも盛況で知らない間にスナックEto。開店か？会長見習い極寒の片町アテンド銀色特攻服。三時間のレム睡眠、感動の閉会宣言とお礼の会。メはすき焼きでYEGす



きすきお涙自分宣言。次の日は夢か幻か現実か頭の中は研修会。その後三十九度の高熱でうなされた。浦島太郎、帰って見たら二週間後、今でもつづく全会研。この部会、報告書見ずにふくい会議は終われない。

式典・懇親会部会

前泊者交流会

今回、全国会長研修会 前泊者交流会は、雰囲気の良い盛り上がりだったものとなりました。これは前泊者交流会のスタッフとして参加頂いた一人一人が自分の役割を成し遂げ、またスタッフの方々にも助言された皆様の成果であります。ありがとうございます。

僕はこのイベントから土壇場での福井YEGの団結心の強さに感動いたしました。(錦織)

●開会式

二〇〇四年二月十三日開催された、日本商工会議所全国商工会議所青年部連合会 第二十一回全国会長研修会 ふくい会議開会式は福井YEGと出演者方の「いい開会式にしたい」「福井に来て頂いた方々に心から楽しんでほしい」「福井の魅力も少しでも伝えたい」そんな思いの結晶だったように思います。

まず福井YEGメンバーが思いを行動に移しました。オープニングセレモニーでのハープ、OTAIKO座・明神、バレエ、踊りのコラボレートが実現しましたし、福井YEG有志によるファイヤーボーイズの記憶にのこるパフォーマンスは、メンバーが情熱をもって出演交渉にあたったからであり、そしてそれが実現は難しいと言われたコラボレートへと出演者の心を動かし、本番ではメンバーと出演者が一体となった奇跡のオープニングセレモニーへとつながりました。

開会式は一種の儀式です。地味だけやらなければいけないことはしっかりやる、だけどそこに「福井らしさ」をしっかりと主張し、シンプルだけど「強いメッ

セージ」と「感動」がある開会式を目指しました。福井YEGの「名も亡き戦士」達が作り上げた汗と情熱で作りたい開会式だったと思います。(中谷 祐)

●大懇親会①

ビックリした時OTAIKO座明神に出演依頼の為、織田町オタイコヒルズを訪れ、五尺の明神太鼓の大きさに圧倒された時。悲しかった時、織田町は雪深く高価な太鼓搬出不可。その結果、石川の浅野太鼓(四尺の太鼓)に変更を余儀なくされた時。感動した時、本番は、フェニックス大ホールでした。感動した時、事が出来、OTAIKO座・明神の熱意とエネルギーを持ってすれば、太鼓の大きさはさほど問題ではなかったとわかった時。嬉しかった時、OTAIKO座・明神にお礼に伺った折、メンバーの一人・事務局の富田さんが横笛で出迎えてくれた時。一番楽しかった時、最も大変な搬入、搬出を大勢の仲間と「あーだ、こーだ」と言いながら挑み、見事やり遂げた時。(河上)

●大懇親会②

全ての情報がレシーバーを通じて入ってきました。まだ開宴直後だというのに料理が、特にカニが底をつき始め、皿を手に笑いの消えた参加者と目を合わせよう、オペレーションの為に大ホールを走り回りました。終わった時には足がガクガク。大ホールがもっと狭ければいいのにと感じました。撤収後、乾杯で使用した朱塗りの枡を洗うことに。熱い念意はありましたが、冷たい水で洗う仕事はさすがに堪えませんでした。(藤井)

●大懇親会③

今回の大懇親会の参加者をとっても羨ましく思います



た。食事の量が足りなかつた、アトラクションが押し... 本当にありがとうございます。

(橋詰 英知)

●ヒックアップYEG総括

今回の担当を経験して、痛感したこと、それは、「社会人として、そして大人として、誠実かつ責任感のある人間であることの難しさ」です。

PR部会

★物産展を振り返って

「うまいもん、ぎょうさんあるわ〜」二月十三日フェニックスプラザ、二月十四日福井商工会議所ビルにて、「ふくいお土産物産展」を実施。

(前田 弘)

★近畿ブロック大会PR隊

私達はPRのための替え歌を作成しカラオケBOXで猛特訓をすませ本番に備えました。そしていよいよ加古川へ「LET'S GO」の前に「カニ・水仙・恐竜」の配役(?)の割り当てがあるとのこと。

(岡山宇太郎)

★四国ブロック大会PR隊

藤田・水元両名は、林会長一人では、さみしいと思い最初の前泊者懇親会・式典リハーサルから参加いたしました。

一日目・二日目と三人で飲みに出たのですが、駅の

前がメインストリートで二十メートルほど、飲み屋さんが二十件ほどでした。米子YEGの方々と同席になり大会長の足立さん(米子の酒販店と、元みずもとの社員だったものが米子で酒屋さんをやっている話で盛り上がり、世間の狭さに驚いた一日でした。

(水元 一徳)

★関東ブロック大会PR隊

久しぶりのスピーチ。いきなりでとちった(口)だが、「ウッキッキ」で笑いをとった。その時、会長は小さな声で言った。「ハハハ、初めて聞いた」...

(前田 陽一)

★北陸信越ブロック大会PR隊

お隣石川県松任の北陸信越ブロック大会は、まずはお隣さんからの登録をできるだけたくさんいただきました。というところで、PRにも熱がこもりました。

(高原 裕一)

★北海道ブロック大会PR隊

オホーツクブルーの上空が、我々ふくい会議PR隊を暖かく迎え入れてくれました。今思えば、あの北見の快晴の空が、ふくい会議の大会当日に繋がっていたのでしょうか。

大懇親会は、タラバガニが山積みになっている屋外

事務局

小谷 孝一 岩本 拓馬

★東海ブロック大会PR隊

各ブロック最後のPRという事で、前泊三名、後発五名の八名での熱の入ったPRをさせて頂きました。ただ、いつも元気なM親分が腹痛で倒れ、前泊ではおとなしく寝ていたそうです。

(宇佐美嘉一)

★全国大会 米子大会PR隊

二月の柏から始まった、長く険しかったPR隊！米子では、「やっと終わる...」という思いと、「PRの機会はまだ米子しか残っていない！」という焦りが、当日メンバーのPR魂を最高潮に！特に事務局I氏の大懇親会PR時の熱唱は、会員と事務局が一丸となって本番を成功に導く予感を感じさせてくれた。

(宇佐美嘉一)

★PR隊総括

福井YEGの皆さん、本当にありがとうございます。おかげさまで、「全国会長研修会ふくい会議」に約千余名の同志が登録してくれました。(総務部会の皆さん、電話攻勢ありがとうございます。)

たんでしょね。

幾度となく、PRの手法、替え歌の変更を余儀なくされ苦境に追い込まれました。しかし時間がないにもかかわらず、福井YEGの熱い魂が、すばやく対応して乗り越えてきました。

みんな忙しいのにもかかわらず、時間を作って全国各地でPRしていただき、衷心より御礼申し上げます。(会社、仕事、家庭に影響なかったかな?)

ただ、PR先でそれぞれ楽しんで来られたみたいで良かったです。

最後に全会研での経験が、会員の皆さん全員にとってプラスになる事をご祈念いたします。

(竹下英一郎)

結果、このふくい会議に三〇〇単会以上の全国のYEG会員の皆様が登録いただき、開催地キャッチフレーズ「鍵を探せ！鍵を選べ！！鍵を握れ!!!ビックアップYEG」というテーマに則した分科会、ビックアップYEG総括などの各プログラムで「三つの鍵宣言」を共有していただいたことは、福井YEGにとって本当に大きな成果だったと実感しています。

最後になりましたが、本会議の開催にあたり、様々な形でご協力、ご支援いただいた後援団体をはじめめとする関係各位に深く感謝申し上げます。また、このふくい会議にかかわった全ての皆様のますますのご発展を祈念申し上げます。



本当にありがとうございます。

★九州ブロック大会PR隊

去る、十月十一日林会長をはじめ木村広報部長と誕生日割の適合者がただ一人だからというだけで決まった私、龍田亮一の精鋭三人集九州宮崎県は高鍋町に乗り込みました。

ブロック大会ということで軽い気持ちで行ったのですが、登録者がなんと九〇〇名を超える大所帯で式典でのPRは未だ経験のないほどの緊張感を味わいました。出来はともかく大懇親会でのPRも含め無事終了できました。岩切プロ代をはじめ高鍋YEGの皆様には大変お世話になりました。

(龍田 亮一)

★中国ブロック大会PR隊

会場は、下関が一望できる海峡メッセ下関で行われました。

式典でのPRでは映像が流れないというハプニングもありそれがより一層印象に残る物になりました。

懇親会のPRは御当地出身の「ジーパン刑事」こと松田優作が撃たれる名シーンを再現!!その後の替え歌では会場が一つになりとても感動的でした。

(岩佐 勝)

★東北ブロック大会PR隊

PR隊三名がバラバラでの到着！どうなるやと始まった東北ブロック大会も宮城県連や気仙沼YEGの友情の中でなんとか任務完了。旬のサンマに豪華なフカヒレ、やたら遠かったこととサンマ寿司の旨さ、そして「冷や汗もののPR」。みんないい思い出(経験)です。

(藤澤 克美)

で開催され、我が福井YEGのトミーコイチが、「いなかっぺ大将」の替え歌で、大々的にPRをしました。北見へ旅立つ前日に清川実行委員長から厳しい個人レッスンを受け、行きの飛行機の中で暗記したプレゼンテーションを、式典で堂々とする事が出来ました。その甲斐あってか留萌から十二時間かけて福井へ来てくれた同志もいます。ありがとうございます(竹下英一郎)

(竹下英一郎)



新入会員紹介



岩田 和輝
勤務先 昭和44年11月10日生
北陸ミサワホーム(株)



久保 貴嗣
勤務先 昭和42年1月15日生
(株) カリヨ



原 一郎
勤務先 昭和43年1月11日生
はらフラワー
フォーリスト
ベルビアン



藤井 紀光
勤務先 昭和50年3月3日生
有限会社
Lab・Lab



堀田 達也
勤務先 昭和38年9月17日生
堀田製作所



安岡 敦盛
勤務先 昭和47年8月2日生
アロック・サンワ(株)

会員大会

一月三十一(土)、鯖江市の嚮陽会館において会員大会が開催され、福井単会からは二十八名が出席しました。県商青連臨時代議員総会が行われた後、大会式典ならびにフォーラムが行われました。今回のフォーラムでは第一部で「For the YEG:自己革新のススメ。」というテーマの下、福井県立大学教授 地域経済研究所の坂本光司氏の講演が行われ、地域経済の視点から現状の景気の動向、これからの新しい時代に求められる自己革新、混沌とした経済状況下でも成功・成長し続ける企業や財界人から学び取れる成功事例・成功の秘訣や言動などが具体例として紹介されました。また第二部では、自己革新を掲げ次代を見据えて活躍するお二人のコメンテーターを迎えトークセッション

が行われました。まだまだ厳しい景気動向の中で求められる自己革新の中では「世界に存在しないものを作り続ける。」「自分に圧をかけ三年連続赤字を出したらやめる!」といった厳しい内容もありましたが、「経営者の最高使命は後継者を育てることである。」「十年先をしっかりと見据えて、情報を収集し人材力を強化。技術力をアップさせ販売力を向上させる」といった言葉は我々青年経済人にとっては大きな教えとなりました。今年度、福井単会では全国会長研修会の準備等例会のほとんどを外で行うしかなく、今回のような自己啓発を内容とした例会は長らく行われてきませんでした。今回参加した会員は自分の事業所で実践できる何かを掴めたことと思います。



編集後記

全国会長研修会を経験した今年の福井YEGは原稿提出に明け暮れた年ともいえるでしょう。でもきっとこのおかげで四〇〇文字の少なさが実感できたと思います。三分の時間や四〇〇文字という制限の中でいかに自分の想いを表現できるか。そんな訓練のできた年そんな経験の中で作れた一〇二号。バックナンバー一〇二冊の中でナンバー1に成れなくてもナンバー1になってほしい一冊です。
(木村 幸生)

事務所新設

佐竹正博 会員
『佐竹土地家屋調査士事務所』
福井市飯塚町30-18
TEL0776-33-5019・FAX0776-36-8838

ご結婚

新郎:菊 祥行 会員
新婦:吉田文代 さん
・挙式の日時:平成15年11月30日(日)
・場所:ウェルシティ福井
(福井厚生年金会館)

